

くよみ通信

No. 19 2020/6/01

初夏の青陵の森の観察会を実施

5月21日、青陵の森の観察会を実施しました。

くよみの会としてはコロナ災禍以降、初めての活動再開でした。お天気も良く、気持ちのいい初夏の森でした。

新入会員の豊島さん、大沼(雅枝)さんも参加しました。

また、前号で紹介した奥土新

館長、新担当者の葛西さんも参加しました。

葛西さんは、アコースティックギターが得意だそうです。ぜひ、近いうちに、その腕前を披露して欲しいものです。

珀杜の会とのコラボで樹名の選定と確認

5月28日、青陵の森は枝いっぱいに葉をつけた、木々の新

「ニッセイ緑の財団」について



今回、青陵の森の整備活動で協力いただいたのは、「ニッセイ緑の財団」という公益財団法人です。1993年7月に15億円(日本生命保険相互会社より全額寄附)を基本財産として設立されました。これまで、全国約200箇所(453.0ha)、136万本を植樹。2017年度から樹木名プレート(“ニッセイの森”の間伐材を使用)、2019年度からは各学校オリジナルの「木のしおり」の寄贈活動を展開中。

↓ここで会議もします



↑倒木が遊歩道を塞いでしまった

緑がともきれいでした。吉成センターの2名、珀杜の2名が加わって例会がありました。

(新人会員の感想から)

●前回(22・26日)行った樹木調査を広場、万葉の道方面から点検し、その後、樹名板制作の段取りを話し合いました。「ニッセイ緑の財団」支援を活用した、プレート取り付けまでの活動プランの提案があり日時を確認しました。

学校の行事、市民センターのイベントの参加等順調に進むよう願っています。(豊島・記)
●鍵が開いて階段を降りていくと、ほの暗いしっとりとした空気に包まれる。

まるで秘密の森。たまたま何度も訪れる事ができた5月の末、やつと目が慣れ、草木と名前がくつついた。

いっばい咲いていた白の立浪草、もう探すくらいになっている。片栗はハートの種だけ。広場に戻ると、エゴの花が咲き始めていた。

小さな森、ずっとこのままでいて欲しい。(大沼(雅)・記)

↓賑やかに、お日様の下での会議です。気持ちいい



↑マルバタケブキ

2020年6月の活動予定

6/4(木)

「中山街道を探る」

- ◆羽黒神社まで歩きます
- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加

6/18(木)

「樹名板制作」

- ◆樹木名プレートを制作します
- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加

6/25(木)

「樹名板制作・仕上げ」

- ◆樹木名プレートを制作します
- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加